

令和4年度 第1回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和4年6月3日（金） 13時30分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 特別活動室
3. 出席委員 山本忠雄 池谷真也 和田安彦 矢野陵子 室内恵理香
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 中瀬協働センター 小杉幸次
6. 学 校 影山ちか（校長） 鈴木健（教頭） 石島正巳（CS担当教職員）
岡本奈緒（CSディレクター・学校支援コーディネーター）
7. 教育委員会 堀田洋一（教育総務課）
8. 傍聴者 なし
9. 協議事項

- (1) 会長の選出、副会長の指名について
- (2) 議長の選出について
- (3) 学校運営基本方針について
- (4) 今後の活動について
 - ① PTAとの連携
 - ② 職場体験学習
 - ③ アルミ缶回収ボランティア
 - ④ 学校環境整備（園芸部との関わり）
- (5) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

10. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒

11. 会議記録

司会の教頭より、委員全員の出席があり過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 会長の選出、副会長の指名について

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、全員特に意見はなく山本忠雄氏が選出され、これを承認した。また、その後、会長に選任された山本委員から、池谷委員を副会長に指名する旨の報告があった。

(2) 議長の選出について

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、全員特に意見はなく山本会長が選出され、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営基本方針について

議長の指示により、校長から、「令和4年度 浜松市立浜北北部中学校 学校経営構想」に基づき、今年度の学校経営について説明があり、委員からは以下の発言があった。

校長：行事が減り、子どもたちを見て頂く機会が減少した。リモートが続いたせいか、野外活動の出発式で整列ができなかった子どもたちが、一泊二日の共同生活を終え、最終日には集合も早くなりきれいに整列できるようになった。みんなで何かを成し遂げる機会を大切にしたい。

池谷副会長：昔に比べて生徒が挨拶をしてくれるようになった。

和田委員：保護者や子どもたちはこの学校に対してどう思っているのか、また、保護者、子どもたちが求めるもの、学校が求めるものがマッチしているのか。それが一致できれば効果的ではないだろうか。

矢野委員：行事が減り、保護者が学校に行く機会が減った。保護者が学校に来るメインは部活動だ。子どもの活躍に関心がある。コロナにより観戦も制限される中、どうしても学校や先生方が大事にしていることが伝わらず、保護者の関心も試合の結果のみに集約されてしまっている。その裏で先生方がどんなことを伝え対応されているのかが保護者に伝わらない。

山本会長：コロナ禍における行事において、今後、地域の皆さんに見て頂く体制はどうされるのか。

校長：今年度は合唱コンクールと体育祭の時期を入れ替えた。合唱コンクールは保護者を入れる予定。体育祭も、人数制限をしたうえで保護者を入れる予定である。

室内委員：学校に関わるのは5年ぶりなので、現在の学校状況を知っていききたい。

山本会長：学校評議委員会は現在どのような状況なのか。学校運営協議会との線引きはどうなっているのか。

校長：学校評議委員会は学校運営の基本方針を共有し熟議することができない、というのが学校運営協議会との大きな違いである。そのため、この場では学校へのアドバイスや、子どもたちの地域の方との関わりを議論していけたらと考えている。また、学校の特色を見出ししていきたい。

山本会長：グランドデザインで示されたように、「分かる授業」「元気な活動」の二本柱で学校教育は進んでいくが、それには地域の力を加味して前へ進んでいけたらと思う。

委員全員が意見を発言し、学校運営基本方針が承認された。

(4) 今後の活動について

教頭：学校として地域と連携できるものは現在次の①～④の4項目であり、どの活動で何ができるか、これについて意見を頂戴したい。

① PTA との連携

校長：今年度より組織変更され発足した「活動応援部」「地域推進部」とCSを絡めて活動していけたらと思う。今後は委員だけでなくボランティアを募り、巻き込んでいきたい。

矢野委員：PTA組織がどうやら何か変わったらしい、という程度で浸透率は低い。負担を減らすことによるリスクとして、学校に対しての関心が薄れるのではないか。関心を向けてもらえるような働きかけをすることが大きな役割だ。そこができればボランティア募集もスムーズにいくのではないか。

和田委員：PTAを縮小すると嫌でも関わっていた人が減る。学校に来なくなる。ごく一部の人だけで済まされてしまう、何らかのかたちで一人でも多くの人が学校に来てもらえるような働きかけが必要だ。

矢野委員：負担は減ったが横の繋がり、地域の繋がりも減った。今年2年ぶりのPTA総会に多くの保護者の出席があった。両親揃っての光景も多くみられた。PTA側として、来て良かった、足を踏み入れて良かったと思われる活動をする1年にしなければならない。今年は勝負の1年だと思っている。

② 職場体験学習

校長：コロナ禍におけるこの2年間で受け入れが難しくなった。生徒200名分の確保は現状厳しい状況だ。ただ、受け入れ先は校区内で挙げてもらいたい。

山本会長：我々地域人としては、野菜の収穫を手伝ってくれる方、お店を手伝ってくれる方、など具体的な項目で募集、案内を出していただけると分かりやすいのではないか。

その方が、コーディネーターの方も動きやすいだろう。

和田委員：商工会や青年部と連携して受け入れ先を紹介してもらうのはどうか。

山本会長：職場体験ではなく職業体験でも良いのか。

石島：昨年はコロナの影響があり、見学やインタビューのみの箇所もある。職業について学習する中で、何が今後必要になっていくのか子供たちが実際に目に触れて欲しい。今のところは幅広く見ているが、可能なら校区内で完結でき、体験して子どもたちに肌で感じてきてもらいたい。

校長：協働センターに受け入れリストはあるのか。

オブザーバー：ない。別の見方としては、時期を先取りして農業体験できる農家さんを探してみてもどうか。その農家さんを紹介することは可能だ。

室内委員：JAに勤めている職員が農業体験をすることがあるが、収穫だけに限らなくてもやり方はある。

山本会長：職場体験については現在進行形であるということで理解してもらいたい。

③ アルミ缶回収ボランティア

校長：子どもたちが持参したアルミ缶をニューリサイクルまでトラックで運んでくれる人材を探している。軽トラでも地域の方で手伝ってくれる人がいると助かる。将来的には、校内にコンテナを置き保護者や地域の方が気軽に持ち寄れるような環境を検討中である。

校長：PTAの活動応援部としてHPで募集してもよいのではないかと？

矢野委員：検討課題としたい。

④ 学校環境整備（園芸部との関わり）

校長：子ども、職員だけではなかなか手が回らないのが現状である。

山本会長：園芸部の活動についてもPTAの活動の方がよいのではないかと？

校長：そこはCSでボランティアを募集して地域の方に来てもらいたい。

堀田：色々なケースが考えられるが、学校運営委員会は協議をする場であり、募集する主体は別にお願いでいくべきである。そこをはっきりさせないとボランティアを募集しても動かないケースがある。どのように募集するかで集まり方も違う。お願いできる主体としてPTAとの連携はとても良い仕組みだと思う。

(5) 夢育やらまいか事業について

教頭より夢育やらまいか事業について詳細を説明した。

次回の学校運営委員会は9月16日(金)14時より開催、新人戦壮行会の様子も見学していただく旨をお伝えした。